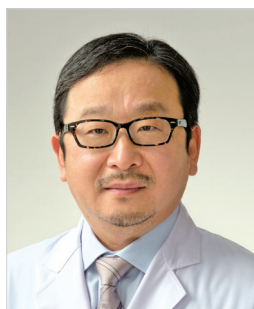


1月

新年のご挨拶

病院長

かどや 直孝
なまたか 直孝


魚津市民の皆様、あけましておめでとうございます。令和5年4月に病院長に就任し3度目の正月を迎えることとなりました。この3年間はコロナ禍の収束とともに始まった新たな時代の中で、医療を取り巻く環境に大きな変化が生じた年月でもありました。令和7年10月には新政権が発足し物価高対策などの政策が動き始めました。医療の世界でも物価高の影響は深刻で、国の定める診療報酬では人件費、光熱費をはじめ医療に必要な機器や材料費などの支出を賄いきれず、日本中の医療機関が経営に苦しんでいます。労災病院を運営する労働者健康安全機構（以下「機構」といいます。）は厚生労働省の所管する独立行政法人で、職員の身分はみなし公務員であるものの病院経営は国からの交付金や補助金なしで運営される民間企業と同じ立場の病院なのですが、コロナ禍の明けた令和6年度は全国に展開する労災病院の多くが業績不振に陥り、機構全体の業績がかつて前例のないほど悪化しました。このような状況を受けて厚生労働省より機構に対する指示があり、経営改善に向けての抜本的な改革を行う中でボーナスカットや医療機器等の導入、更新の凍結をはじめ様々な支出の削減など身を切る改革も実行してきたところです。このような状況の中で昨年11月に村椿 晃 魚津市長の会見があり、現下の病院を取り巻く厳しい経営環境の中、当院が今後もこの地で安定的に市民に必要とされる医療を提供できるよう、魚津市が令和8年度から3年間に渡り計6億円という多額の補助金を予算化する予定である旨発表がありました。このことは、魚津市民にとって当院がかけがえのない存在であるとの評価であり、その評価に報いるためにも魚津市民の皆様に対し必要とされる医療を責任をもって提供せねばならないということを中心に刻んだところです。今後はこの貴重な支援を無駄にしないために、令和11年度以降は市の財政支援なしでの経営安定化に向けて職員一丸となって取り組んでいく所存です。また、経営安定化は病院存続のための手段に過ぎず、あくまでも病院の使命はより多くの患者さんの健康や生命を守ることであると肝に銘じ日々たゆまぬ努力を積み重ねていく必要があります。こうした不斷の努力があってこそ、当院がこの魚津の地で今後も安定的に存続可能となり、魚津市民に信頼され、愛される「面倒見の良い病院」として生き残っていけるものと考えています。今後とも引き続き魚津市民の皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

富山ろうさい病院では、毎月、ケーブルテレビ「NICE TV」による行政番組「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：2026年1月1日～1月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「(仮)病院薬剤師ってどんな仕事をしているの？」

(出演者) 薬剤部長 稲村 勝志



過去の放送はこちらのQRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ



【過去の放送はこちらから】

URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/movie/>